研究発表リスト＜第１会場＞

	時間／テーマ／発表題名／施設名／氏名	発表内容
1	9：35 ～　テーマ１ サンホーム厨房の「チャレンジレシピ」 ～利用者の笑顔のために～ 高齢者介護福祉施設サンホーム鶴間　森　由和	開所して約２７年経つが、施設のオリジナル料理がないので、創作したいとの意見があり挑戦してみる事にしました。厨房職員で料理コンペを開催し、上位だった料理をさらに改善し、実際に利用者に食べて頂きました。その流れと料理の作り方などを発表します。
2	9：52 ～　テーマ１ 誤嚥予防、姿勢からのアプローチ 特別養護老人ホーム　来夢の里　永江　典子	ご利用者にとって、最大の楽しみの一つである食事を安全においしく味わって頂く為に、食事中の姿勢に焦点をあて、ご利用者ごとの『よい姿勢とは』を各専門職が検討、実施、評価した取り組み。
3	10：09 ～　テーマ１ 「また食べたい」と言わせたい ～ケアハウス、通所介護利用者の本音を探る～ 村岡ホーム　風間　翔太	なかなか本音を聞けないケアハウスとデイサービスのご利用者から普段提供している食事についての本音（味、見た目、提供方法等）を聞き取り、飽きさせない工夫、楽しみにしてもらえる食事提供に繋げていけるよう、直営の強みを生かして事業所全体で模索した取り組みの発表。
4	10：26 ～　テーマ１ 要介護高齢者の口腔清掃について ～仕上げ磨きの必要性～ 特別養護老人ホーム湖　小清水　純一	要介護高齢者の誤嚥性肺炎の予防はＱＯＬ維持のためには重要である。誤嚥性肺炎は口腔内のプラークに存在する常在菌によって引き起こされることは周知のことである。そこで今回は、自分で口腔清掃を行っているという要介護高齢者の清掃後の口腔内の状態を明らかにするとともに、仕上げ磨きの重要性について検討する。
5	10：43～　テーマ１ 「パ・タ・カ・ラ」　ごはんですよ！ 特別養護老人ホーム　菅の里　矢部　弘幸	利用者の重度化が進む中、菅の里では平成 26 年度よりソフト食の導入を始め本格的に摂食嚥下への取組みを始めました。そこからこの 2 年間、嚥下内視鏡検査や歯科医師による指導、口腔体操、口腔ケアなど様々な角度から摂食嚥下について学び考えてきました。その取り組みを報告します。
6	11：00 ～　テーマ１ たかがトロミ？されどトロミなんです。 ～ホームの実態調査からみえたもの～ 横須賀老人ホーム　鈴木　悠	施設内で提供されているトロミをつけた飲み物の濃度を SARAYA「簡単とろみ測定版」を使用して測定。嚥下リハビリレーション学会嚥下調整食分類 2013 にそって判定したところ、「濃すぎるトロミ」が提供されていたことがわかった。結果を踏まえ、介護職員に適正なトロミの濃度を理解してもらうことを目指し研修会を実施した。
7	11：17 ～　テーマ１ 介護食を安全で美味しく、健康的に ～介護食のあるべき姿～ 緑の郷　西久保　早苗	本来、介護食とは摂食嚥下機能の低下に対し「安全で美味しく、健康的な食事」を提供する為のものだと考えています。しかし、例えば所謂「ソフト食」にしても、これを作る技術が基軸になると、喫食者がこの技術に合わせる様になっていないだろうか。本来の目的に立ち戻る事により、介護食の進化をやり直します。
8	12：34 ～　テーマ１ より良い食事ケアに向けて 特別養護老人ホーム　志田山ホーム　岩澤　征実	食べて元気～難しく考えない食事介助～
9	12：41 ～　テーマ９ 「知らない」を「聞いたことがある」へ ～聞くは一時の恥 聞かぬは一生の恥～ 特別養護老人ホーム　けいあいの郷 緑園　當間　雄二	「取り組んでみた」　職員のレベルアップの為に必要な事は何だろう。介護技術・介護の知識・医学的知識…etc　様々な技術や知識を必要とするオールマイティーな職種が介護職である。「分からない」「知らない」という新人・中堅職員が「聞いたことがある」「知っている」と言えるようにする事が、介護職員のレベルアップへの第一歩である。
10	12：58 ～　テーマ１ 経口摂取でおいしく食事を摂りたい 介護老人福祉施設　大師の里　丸山　健太	平成 27 年 9 月に拒否による食事摂取力低下により入院、10 月に胃瘻増設となったＫさん。それからは、毎日なにもせず居室で過ごす日々になっている状態。日常生活とは何かを考え、それまでＫさんが出来ていた経口摂取。主が楽しみとしていた「食事」を再び経口で摂る事は出来ないか、介護に関る私たちができることを研究する。
11	13：15 ～　テーマ１ イベント食でみんなが笑顔 特別養護老人ホーム　恒春ノ郷　尾野　一幸	恒春ノ郷給食課は、平成 21 年 10 月に厚生労働大臣賞を受賞し、毎日美味しい食事を提供している。より楽しみに感じて頂く為にイベント食を開始したことで、ご利用者、ご家族、職員みんなが笑顔になる取り組みとなった。

12	13：32 ～ テーマ１ 生きる喜び　食の楽しみ 特別養護老人ホーム　和みの園　福島　涼	食事について	
13	13：49 ～ テーマ１ 口福を目指して！ ～ＫＴバランスチャートを活用した支援と取組～ 横浜市浦舟ホーム　荻窪　真一	自分の担当したお客様が、徐々に食べることが難しくなり、介助方法を検討したがうまくいかず亡くなられた。その思いから食べることの重要性を感じ、食事の介助方法や食形態の変更だけでは支援に限界があることが分かった。ＫＴバランスチャートを活用し、食べる意欲や美味しく召し上がっていただくため、検討し、取り組んだ。	
14	14：06 ～ テーマ１ 当施設における口腔機能管理の取り組み クロスハート幸・川崎　亀石　由美子	口腔機能管理において、「最後まで口から食べていただく」ことを目標とし、根拠に基づいたケアを実施する為に介護職が中心の委員会を立ち上げ、問題改善に向け仕組みやマニュアルづくりに取り組んできた。立ち上げから現在までの経過報告を行う。	
15	14：23 ～ テーマ１ 食支援から広がる輪 ～気づき×学び×体験×人×笑顔～ 松林ケアセンター　宮城島　宏	ご利用者様の「食べられない」をきっかけに研修会へ参加し、知識、他施設、他職種の取り組みを学び、得た知識を知恵へと施設内で変換していくことで多職種間の成功体験へ繋がった。その結果、職員間、ご利用者様との信頼関係の構築ができ、食卓の笑顔が増えた。食支援の観点から、ご利用者様の新たな笑顔が増える仕組み作りについて報告する。	
16	15：00 ～ テーマ２ 尿量測定による排泄ケアの見直し ～一人ひとりに合わせたケアへ～ 特別養護老人ホーム中川の里　佐々木　寿	ベッド上パッド交換のご利用者さまのパッドからの尿モレが増えてきた。ご利用者さま一人ひとりに適切なタイミングで介助ができるように、尿量測定をおこなった。その結果を発表する。	
17	15：17 ～ テーマ２ 下剤に頼らない排便コントロール 社会福祉法人　阿部睦会　横浜能見台ホーム　及川　絢子	〈基本理念〉目配り・気配り・こころくばりであり、常にご利用者様とご家族一人一人の立場にたち、優しい心と微笑を忘れずに豊かな感性の錬磨の旨とし、明朗で規律正しい業務追行を目標にしてご利用者様に満足されるサービスを提供する。（入所　８０名）	
18	15：34 ～ テーマ２ 便秘を解消してＱＯＬの向上へ 特別養護老人ホーム　栗原ホーム　内藤　祐子	日常生活に於いて、心身ともに大きな影響を及ぼす便秘。それはＱＯＬの低下に繋がります。私たちは長年便秘に悩んでいたご入所者様のケースを、多職種がケアカンファレンスによってこの課題に協働して取り組み、科学的根拠に基づいた介護を実践することで、日常生活を取り戻していく過程を発表します。	
19	15：51 ～ テーマ２ 理想のオムツ交換追求中 ～ Pursuit of the ideal ～ 松みどりホーム　三富　智子	現在、松みどりホームでは利用者それぞれに合ったオムツカバーやオムツパットを利用して頂く為に隔週でデーターを集計し定例会議の場で全セクションを含めて検討しています。本人に合った物を使用して頂く事が介護の基本であると考え日々研究しています。発表では経緯を踏まえて現在までの取り組みの過程を説明します。	
20	16：08 ～ テーマ２ 温もり、ハンドで腸を元気に！ ～便秘改善に向けての多職種協働の取り組み～ 介護老人福祉施設幸風苑　中畑　尚祐	便秘薬を服用していても、下剤の追加や浣腸を必要とする頑固な便秘の対象者数名に対して、栄養士は乳果オリゴ糖強化食品を提供し、介護職員は温罨法と腹部マッサージを行い、多職種協働で便秘改善に取り組みました。施行前後の排便日数・追加下剤の回数・浣腸の回数を比較し、その効果を検証しました。	
21	16：25 ～ テーマ２ 快適に過ごしていますか？ ～さわやかプロジェクトの歩～ 緑の郷　佐藤　茜	ご利用者が快適に生活を送ることができるよう立ち上げたプロジェクトチーム「さわやかプロジェクト」。飲水量の配慮、食物繊維の摂取、日常の運動に着目し自然な排便と、身体の活性を目指し自立支援へ繋げます。	

〈テーマ照合表〉

1 食事・栄養・口腔ケア	5 安全管理	9 人材育成・業務改善と効率化	13 デイサービス事業
2 排泄・入浴ケア	6 アクティビティ・リハビリ・レクリエーション	10 その他（施設系）	14 訪問介護・居宅介護支援事業
3 認知症ケア	7 ケアプラン・相談援助	11 地域密着（グループホーム）・小規模多機能	15 養護・軽費・ケアハウス等
4 ターミナルケア・医療との連携	8 ユニットケア・グループケア	12 地域包括支援センター	16 その他（在宅系）

研究発表リスト＜第２会場＞

	時間／テーマ／発表題名／施設名／氏名	発表内容
1	9：35 ～　テーマ３ 認知症への個別ケア ～周辺症状への取り組み～ 横須賀愛光園　小野　になみ	ショーステイのご利用者を対象に認知症の周辺症状への取り組みを実施した。認知症を患っているご利用者に対し、職員の関わり方が重要になっていると考え、職員のケアを統一することに主眼を置いた。そして、ケアを統一することで、周辺症状がどう変化したかを研究した。
2	9：52 ～　テーマ３ 孤独な一日 ～体験してみて初めて分かる、利用者の辛さから～ 特別養護老人ホーム　相生荘　栗藤　彰久	認知症委員会にて、利用者の気持ちの理解を深める為に「一日利用者体験」を実施した。今回は、ある職員が体験した「一日利用者体験」の様子やその時の気持ち、認知症利用者に対する思いの変化に対してのまとめと、今後の認知症委員会での課題について発表します。
3	10：09 ～　テーマ３ 目覚ましＢ棟！！（重度認知棟） ～レク・リハでＷＡＫＥ　ＵＰ！！～ 特別養護老人ホーム　シャローム　石渡　麻記子	重度化が進むＢ棟（重度認知棟）では、日々余裕のない介護に追われており、日々行っている様々なレクリエーションがおざなりになっていないかと感じていた。レク活動を通して、利用者のＱＯＬに貢献できないかと、目的意識を持ったレクリエーションを行うことで、利用者も職員もモチベーションも上がるのではないかと考え、取り組みを行った。
4	10：26 ～　テーマ３ 『ユマニチュード』を実践して ～「目を見て話をしてますか？」～ 特別養護老人ホーム　縁ＪＯＹ　名嘉山　優介	施設利用者の重度化、高齢化が進むなか、職員から認知症ケアについての悩みが多くあげられていました。認知症ケアの新しい技法「ユマニチュード」を職員で勉強、実践してみた。その結果、利用者のみならず、実践したことで職員にも大きな影響があった。その実践過程を報告したい。
5	10：43～　テーマ３ 終わりの無い答え探し ～介護拒否の強いＫ様との１年８ヶ月～ 特別養護老人ホーム　鵠生園　藤田　順一	介護拒否で職員に手を上げることの多かった入所者Ｋ様と、戸惑いやいら立ちを抱えながら介護した私達。答えが見つからない中、より良いケアを模索し、皆で考え少しずつ関係性を築き始めていた矢先にＫ様は他界。悩み考え実践しまた悩む。亡くなった後も続いた職員の葛藤とわずかな光、最期まで関わらせて頂いたＫ様へのケアについての発表です。
6	11：00 ～　テーマ３ 若年性認知症支援について ～「怒り」の管理～ 特別養護老人ホーム金井原苑　井上　道子	若年性認知症支援について
7	11：17 ～　テーマ３ 老保交流による今後の展開と展望 特別養護老人ホーム　かりん　柏木　智憲	特別養護老人ホームの入居者と保育園の園児との”老保交流”による効果を報告し、今後の展開と展望を交え発表を行う。
8	12：34 ～　テーマ３ 自分らしく居るために！ ～役割のある暮らし～ わかたけ鶴見　小林　友	自宅で生活をしていれば通常、家庭内での役割を持ちながら過ごしているが、施設入居を期にその役割が継続出来ている方は少ない。個々に合った役割を持ち、実践して支える事で認知症特有の帰宅願望が緩和され豊かな表情を取り戻し、その人らしい生活が送れるように変化された事例を報告する。
9	12：41 ～　テーマ３ 地域での生活継続には住民の理解協力が必要 ～認知症対応型通所事業のすべき地域との交流～ わかたけの家三ツ沢　神馬　幸子	認知症であっても自宅で住み慣れた街で暮らし続けていく！その為の支援。認知症対応型通所でのケアのひとつ「地域との交流イベント」を実施その成功を糧に直後から「通所の休業日」を利用しての「地域ホッとカフェ」開催の継続から見えてきた地域ぐるみの支えあい
10	12：58 ～　テーマ３ みんなでお遍路、歩いて認知症予防 ～次のお寺まで何歩かな？～ 横浜市富岡東地域ケアプラザ　中島　里華	通所介護において、歩行による認知症予防活動の紹介。通所介護で一日どれくらい歩行しているかを計測、万歩計を使い楽しみながら歩行運動することで認知症予防に取り組む。
11	13：15 ～　テーマ３ 夜はぐっすり眠りたい！！ ～夜間入浴がもたらす効果について～ 特別養護老人ホーム　ふじの郷　松本　洋史	認知症のＴさん。夜、なかなかぐっすり眠れず、起きだしては歌をうたったりされ、その為なのか昼間ウトウトされています。　何とか夜にぐっすりと眠ってほしいと思い、入床前の足浴や週２回の夜間入浴。さらには毎日の夜間入浴を実施しました。その結果、Ｔさんの睡眠状態にどのような変化が見られたのか。夜間入浴の効果について報告します。

12	13：32 ～　テーマ 3 ずっと我が家を目指して ～認知症状はケアにより改善できる～ ずっと我が家上溝本町　横井　顕	住み慣れた地域でねばり強く生活していくために、今までの「ショートステイ」の概念を変え、利用される方にとっての過ごし方、環境を提案していき、本人を支えていける場を目指していきます。今回は、認知症ケアを中心にそのサービス提供の内容について発表していきます。
13	13：49 ～　テーマ 3 「ぐっすり寝ちまったよ～」 ～第 2 の我が家の実現に向けて～ 特別養護老人ホームさつき　佐々木　亜依	認知症のある A 様は当施設をセンターと言い、新しい環境に馴染む事ができないご様子であった。その為、入居当初より夜間浅眠が課題であり、日中の傾眠も頻繁に見られ、生活習慣を見直す必要があった。本研究において、居室の環境整備を行い、自宅を再現することで快適な睡眠につながるよう取り組みを実施した。
14	14：06 ～　テーマ 2 やればできる。わたしたち。 ～潜在能力を生かした支援をめざして～ 共楽荘特養ホーム　國松　敬子	「重介護者だからできるはずがない」という思い込みによる過剰な介護状態を見直すことによって、椅子に座って食事をしたり、個浴が利用できたり、トイレで排泄ができたりと、生活の中で“できること”が増えてきた。思い込みによる介護から脱却し、潜在能力を生かした介護への取り組みとその成果について発表する。
15	14：23 ～　テーマ 2 排泄について 特別養護老人ホーム　和みの園　江尻　夕喜代	排泄について
16	15：00 ～　テーマ 2 オムツゼロの取り組みから次へ ～入居者 ADL 低下による排泄ケアの見直し～ 第二森の里　佐々木　理恵	数年にわたり施設でオムツゼロを掲げ、入居者の排泄パターンを調べ、水分・食物繊維の摂取を行い失禁のない取り組みを行ってきた。しかし入居者の ADL 低下による職員の取り組みの見直しがなく、排便困難者に変化が見られなくなった。そこで排泄ケアを見直した取り組みの発表をします。
17	15：17 ～　テーマ 10 老後はオセアニアで過ごしたい！ ～オーストラリア等への研修を経て～ 寒川ホーム　今村　真	海外研修から学んだこと
18	15：34 ～　テーマ 10 5S 活動の取り組みについて ～整理整頓を習慣に～ 特別養護老人ホーム 中川の里　高橋　悠	5S 活動の取り組みとして各所の整理整頓を実施し、快適な職場環境づくりに繋がった。更に、ご利用者さまの居室環境改善を目指して、清掃方法を統一し、清潔の基準を定め、マニュアルを作成した。
19	15：51 ～　テーマ 10 満足して働き続けられる職場とは。 わかたけ青葉　鏑木　直人	わが国では近年介護職員の人材不足が問題視される中、当施設、わかたけ青葉は過去 3 年間での離職者は少ない。その背景にはどのような取り組みが行われているのか。過去の統計、アンケート等の調査を行い、その結果からわかたけ青葉の取り組みの成果や課題を明らかにし発表する。
20	16：08 ～　テーマ 10 川崎市で一番笑顔の溢れる施設を目指して 潮見台みどりの丘　中矢　一弘	平成 22 年 6 月にオープンした南プロバンス風の施設です。来訪される方は「素敵な施設ですね。」と言葉を掛けて下さいます。しかし床にごみが落ちていても、車椅子が汚れていても…。見学者が来ても会釈だけと穴だらけでした。川崎市で一番綺麗で、一番挨拶のできる施設を目指して立ち上がった接遇美化委員会の取り組みです。
21	16：25 ～　テーマ 10 美しい姿勢で楽しい生活 ～円背改善による無限∞の可能性～ 特別養護老人ホーム　ワゲン新横浜　高橋　鎬光	入所当時は自発的な発語や食事の自力摂取もあったが、徐々に日中の傾眠や円背が強くなり食事の自力摂取や会話が困難になってきた。本人の残存機能上可能であることや、本人の性格を考え、入所当時のような生活を送ってもらう為に睡眠と円背を改善する。

〈テーマ照合表〉

1 食事・栄養・口腔ケア	5 安全管理	9 人材育成・業務改善と効率化	13 デイサービス事業
2 排泄・入浴ケア	6 アクティビティ・リハビリ・レクリエーション	10 その他（施設系）	14 訪問介護・居宅介護支援事業
3 認知症ケア	7 ケアプラン・相談援助	11 地域密着（グループホーム）・小規模多機能	15 養護・軽費・ケアハウス等
4 ターミナルケア・医療との連携	8 ユニットケア・グループケア	12 地域包括支援センター	16 その他（在宅系）

研究発表リスト＜第３会場＞

	時間／テーマ／発表題名／施設名／氏名	発表内容
1	9：35 ～　テーマ４ 最期の日までマイペース ～施設全体で支える終末期～ 特別養護老人ホーム　メイサムホール　清水　小百合	当施設は、平成 17 年より看取り介護を実施し、平成 28 年 1 月現在 69 名の方の看取り介護を行いました。スタート時より、ご本人ご家族共に安心して最期の時を過ごして頂けるように、施設全体で行う看取り介護を目標に取り組み、お看取りの都度に試行錯誤しました。現在、施設全体で関わる体制が整ってきたので報告します。
2	9：52 ～　テーマ４ 看取り委員会での取り組みで見えてきたこと 湘南老人ホーム　和田　孝行	当ホームでは、より良い看取り介護を実践するために、介護員を中心に看取り委員会を設けている。介護職としての看取り介護対する視点を主体的に考え、ご利用者やご家族に満足いただき、職員がより安心して看取り介護に臨むにはどのような準備が必要なのか、まだ途中経過ではあるが、委員会活動をとおして見えてきたことを報告する。
3	10：09 ～　テーマ４ 看取り介護 10 年目を迎える現場の課題 すずかけの郷　宇野　真由美	当施設では看取り介護に取り組み 10 年目を迎えた。現在の特養では介護度の重度化、介護士減少などから、看取り介護に充分に手が届かず、手順はこなせても心配りが感じられない作業的なケアになっているように思える。今回、看護師と介護士で連携して根本原因を探り改善への取り組みを行った。
4	10：26 ～　テーマ４ ＱＯＬの高い穏やかな生活の継続 ～認知症高齢者をＦＩＭを基に比較検討する～ 特別養護老人ホーム太陽の家　深津　絵里	これまでの認知症看取り事例を基に、認知症が身体・精神問題の悪化に関連しているのかを診断の有無に分けＦＩＭ評価（機能的自立度評価）を基に 5 年前と現在の状態を比較した結果を報告する。
5	10：43 ～　テーマ４ ターミナルケアの実現における連携の重要性 ～施設と在宅ターミナルケアの事例を踏まえて～ 特別養護老人ホーム野庭苑　千明　親市	昭和６２年に開設した従来型の特養施設。「地域や家庭との結びつき・明るい家庭的な雰囲気」を大切にし、ご利用者が自立した生活を目指せるようなサービスの提供に努めています。
6	11：00 ～　テーマ４ 胃瘻の方の看取り介護 特別養護老人ホームしゃんぐりら　林ノ内　達哉	御家族様と共に取り組んだ看取り介護の取り組みについての報告。胃瘻の利用者様の状態悪化、入院から退院。看取り介護の初めから最期に至るまでの経緯や、看取り介護中の身体面、食事面の取り組みについて。又、御家族様の想いや、今後の看取り介護の課題について。
7	11：17 ～　テーマ４ 終焉の住処 特別養護老人ホーム　白朋苑　高野　裕子	年間 10 名以上の方の看取りの事例から、印象に残っているケースを発表する。特養でも在宅復帰の重要性がいわれているが、最期を特養で過ごされる意義も考えていく必要があり、看取りの実践をされていない施設にも参考にして欲しいと考えている。
8	12：34 ～　テーマ４ 看取り介護を終えて 特別養護老人ホームしゃんぐりら　黒川　智浩	施設での看取り介護の実践報告
9	12：41 ～　テーマ４ もうひとつの看取りのかたち ～施設から在宅へ～ 特養ふれあいの泉　磯　佐智子	社会福祉施設における看取りの機会が増えている中、当施設では看取り体制は準備段階にあり、そのため自然な衰えであっても、病院へお連れしています。この 2 名のケースはどちらも病院からご自宅は帰られました。その中でご家族様とお話ができていた事、うまく伝わらなかった事を振り返り、看取りに向けてご家族様との信頼関係を築いていきます。
10	12：58 ～　テーマ 71 インタビューから本音を見つける ～アセスメントの重要性～ ニューバード　竹内　菜々	その人らしい暮らしをするためには何が必要か？いつも当たり前に行っているアセスメントを『ご入居者インタビュー』として聞き取りをすると、様々なお話が聞けるようになりました。そして、一人一人の本音をケアに繋げる取り組みを発表します。
11	13：15 ～　テーマ 14 基準の共有化 ～連携強化を目指して～ 特別養護老人ホーム　南太田ホーム　町田　洋平	当ホームの夜間帯のオンコールにおいて今まで基準が設けられていなかった。そのため、介護員は緊急時対応に不安をいだきながら対応し、看護師も基準が定まっていないことにより情報が不足し、十分に状況把握が難しい状況になっていた。それらを解決するため統一された基準を作ることとした。

12	13：32 ～　テーマ４ ご安心ください！入れますよ！ ～特養における透析患者様の受入れについて～ ハートフルガーデン川和　谷　康子	透析患者様においては、特養本入所のみならずショートステイさえもご利用が困難な状況がある中、私どもの施設では透析患者様の積極的な受入れを実現している。受入れに不可欠である医療との連携も円滑である。今日までに私どもが行ってきた透析患者様受入れについての取り組みや、今後の課題等の検証結果について報告する。
13	13：49 ～　テーマ４ ご家族とチームとなって行う看取り介護 ～看取り介護家族勉強会をおこなって～ 特別養護老人ホーム　サニーヒル横浜　坪田　剛	平成２１年７月１日に開所した定員が１５０名（短期入所２０名含）のユニット型特別養護老人ホームです、平成２６年４月から看取り介護導入のため、ご家族と一緒に学び始めました。そして、７月から看取り介護を開始しました。これからも、ご利用者やご家族にいい人生だったと感じていただけるよう学び続けていきたいと思います。
14	14：06 ～　テーマ７ 一人の人を支えるために ～ケアプランと記録の連動～ ニューバード　織田　俊宏	その人らしい暮らしができるよう、私たちは一人一人を多職種みんなで支えています。また、ケアプランに基づいたケアは、アセスメント⇒計画⇒実施⇒記録及びモニタリング⇒更新を PDCA サイクルで行っています。多職種で関わる為にケアプランと記録の連動の重要性を発表します。
15	14：23 ～　テーマ７ 私たち、聴けてる？ ～自分達でロールプレイをしたら・・・・～ 特別養護老人ホーム　天王森の郷　森　和子	相談員は内部・外部の人たちと話す機会が多い職種であるが、自分たちは人との話を聴くことが出来ているのか疑問を感じた。相談課内で勉強会を開き、基本的なカウンセリング法を学び、面談場面を想定したロールプレイを行い逐語禄を作成すると、自分の癖や未熟さに気が付いた。福祉職が対人援助技術を身につける大切さを発表します。
16	15：00 ～　テーマ４ 口腔リハビリと看取り援助 ～最後まで口からたべる～ 特別養護老人ホームハピネス都筑　山本　健太郎	「最後まで口から食べる」事を行う為には、適切な口腔機能の評価が必要です。現在の口腔機能の評価をしっかり行い、ご本人、ご家族、職員が同じ方向を向き、看取り援助を行います。「飲み込み」という動作を可視化する事により、食べれる物を模索したり、食べれない状況を判断することが安心な看取り援助へとつながっています。
17	15：17 ～　テーマ７ 介護過程の展開 ～専門性へのチャレンジ～ 陽光の園　早川　佳江	介護職不足からグループケア廃止となり１年が経過しました。身体介護や生活支援など、イメージ化された介護の仕事に限界や戸惑いを感じ、更なる介護職不足が招く危機に直面する今、将来を担うべき介護の仕事に何を目指せば・・・介護の専門性を振り返るため、介護過程の展開と実践した取り組みを発表します。
18	15：34 ～　テーマ 10 スライディングシート、フル活用！！ ～ご利用者が安心できる介護について～ 特別養護老人ホーム希望苑　佐藤　美恵子	忙しい仕事に追われ、ご利用者の気持ちに寄り添う介護が出来ているのかという疑問がありました。日常の介護を振り返り、ご利用者の身体の負担をもっと軽減したいとスライディングシートを活用し、安心していただける介護のためにチームで取り組んだ内容を発表します。
19	15：51 ～　テーマ 10 看護師は職員からどう思われているんだろう ～職員アンケートの結果から～ 芭蕉苑介護老人福祉施設　高木　留美子	介護施設の看護師には、医療的な知識だけでなく、コミュニケーション力や交渉力、調整力が求められていると言われている。今回、施設職員にアンケートを行い、看護師が他の職員にどのように思われているかを分析。さらにコミュニケーションの勉強会を重ね、看護師自身が自分の傾向と問題点について考えることが出来た。
20	16：08 ～　テーマ 10 外国人と働くということ ～ＥＰＡ候補生を受け入れて７年経った今～ 新横浜パークサイドホーム　佐々木　聖子	私達の法人は、これまでに累計５４名のＥＰＡ候補生の受け入れを行い、現在は介護福祉士の試験に合格した外国人が１６名、ＥＰＡ候補生が２２名、合計３８名が働いている。受け入れを始めてから７年が経過し、当初抱えていた問題や課題が現在どのように変わってきているのか？「外国人と働くということ」について発表する。
21	16：25 ～　テーマ 10 マタニティ職員と共に働く為に ～ようこそ赤ちゃん！一緒に成長していこうね～ 特別養護老人ホーム　恒春の丘　佐薙　ひとみ	女性職員が多く活躍する介護現場で、どなたでもマタニティ職員と共に働く可能性があります。マタニティ職員と周りの職員とで働き続けられる環境を工夫し、マタニティ職員の業務内容の明確化やユニット内の業務改善を行いました。それらの結果、ユニット職員の負担を少しでも軽減し、普段と変わりなくユニット運営を行うことが出来ました。

〈テーマ照合表〉

1 食事・栄養・口腔ケア	5 安全管理	9 人材育成・業務改善と効率化	13 デイサービス事業
2 排泄・入浴ケア	6 アクティビティ・リハビリ・レクリエーション	10 その他（施設系）	14 訪問介護・居宅介護支援事業
3 認知症ケア	7 ケアプラン・相談援助	11 地域密着（グループホーム）・小規模多機能	15 養護・軽費・ケアハウス等
4 ターミナルケア・医療との連携	8 ユニットケア・グループケア	12 地域包括支援センター	16 その他（在宅系）

研究発表リスト＜第４会場＞

	時間／テーマ／発表題名／施設名／氏名	発表内容
1	9：35 ～　テーマ５ 今、そこにある“菌” ～ペタンチェックで菌を見える化してみました～ レジデンシャル常盤台　川野　ひとみ	施設の至上命題である感染症予防！手洗いやうがいを徹底し、消毒や環境整備などに取り組み、私たちはウィルスや細菌といった、目には見えない敵と戦っています。見えない敵…？今、そこにはどのような細菌がいるのか環境検査（見えない敵を見える化）を行い、感染症予防策を見直しました。
2	9：52 ～　テーマ５ 減らせる事故は減らしたい ～皮下出血から考える～ 社会福祉法人横浜市福祉サービス協会　新鶴見ホーム　小澤　みゆき	毎日のケアの中で、お客様のお身体に見つける小さなアザ。転倒による打撲だけでなくちょっとした圧迫でも、皮膚の弱い高齢者の肌には皮下出血ができやすいです。皮下出血のできやすい場所、大きさ、形、様々な角度から検討をすることにより考えた安全なケアについて報告します。
3	10：09 ～　テーマ５ 抱え上げない介護へ ～ご利用者の負担軽減と腰痛予防～ 特別養護老人ホーム　敬愛の園　永野　豪	介護職員の悩みである腰痛とご利用者の外傷事故。その二点に焦点をあて、委員会活動を通じ、職員の腰痛予防とご利用者の安心・安全を考える。器具（ロールボード）を導入したことによる、職員とご利用者の変化を発表。
4	10：26 ～　テーマ５ 事故から学ぶ ～”事故”で終わらせないために～ 横浜市天神ホーム　中川　賢治	介護事故を完全に予防することは非常に難しい。しかし予防できない事故を含め起きてしまった事故からいかに学び、その学びを活かしていくという視点こそ最も重要なのではないだろうか。特別養護老人ホームの現場より事故からいかに学び、その学びを現場にフィードバックしていくか。その方法と概要について発表させていただく。
5	10：43～　テーマ５ 事故報告書から見えた今後の課題（未来） ～本当に必要だったのは意識改革～ 特別養護老人ホーム新横浜さわやか苑　麻生　伸也	開苑して１２年。事故（報告書）の件数は増加傾向にあったが、次に活かせることが進まない状況であった。委員会活動・現場は目的を見失う時期もあったが、まずは現状を把握・理解することで、今後の課題が明確になった。この活動の中で、見えてきた事故要因、そして、本当に必要だったのは、介護職員の意識改革でした。
6	11：00 ～　テーマ５ 事故防止対策の再アセスメント ～再発事故ゼロを目指して～ 特別養護老人ホーム横須賀椿園　本間　章浩	事故を完全に無くすことはできない。だが介護現場において、ご利用者に同じ様な原因の事故を繰り返させてしまう事があってはならない。しかしながら当施設では再発事故件数が多いのが現状である。そこで、事故に対する防止策や再発防止策について、今一度根本から見直し、改善をしていくために行った取組みを報告する。
7	11：17 ～　テーマ５ アクシデントループ ～ストップキャンペーン～ 横須賀老人ホーム　飯田　裕彦	事故報告書の件数が、減少しない状況にある。事故報告書のデータを元に、繰り返し起きている事故に着目、２名のご利用者を対象に、再アセスメントを行い、事故防止対策として、具体的な介助手順方法を作成し実践した。実践した結果から、事故を防止するためめに、何が必要なのかを検証した。
8	12：34 ～　テーマ５ 背筋がヒヤリとする現場 ～介護現場におけるヒヤリハットの重要性～ 新山下ホーム　石井　佑弥	最近、S 氏は転倒事故が増えてきた。ADL の低下は見られないが、転倒事故を嫌がる様子が見られ、自ら車椅子へ移乗をしなくなっていった。S 氏が安心して車椅子へ移乗する為に、リスクマネジメントの観点から取り組みを行った。
9	12：41 ～　テーマ５ なぜ？その事故が・・・ ～チームで取り組む事故防止～ レジデンシャル常盤台　斉藤　廉	なぜ、その事故は起きてしまったのか・・・その理由を考えることができれば、先手を打つことができ、事故を未然に防ぐことができるはずです。今回私たちは、「ありそうな事故」の事例を作成、それを基に職員研修を行い、チームで事故防止に取り組みました。
10	12：58 ～　テーマ５ しっかりしてよ　職員さん！！ ～声出して確認　二人で確認　も一度確認～ 高齢者支援施設　たまてばこ　海原　千明	皆さん不安に思うことはありませんか？日々の服薬介助。何度も繰り返されるミス！！どうしたら防ぐことが出来るのか…。
11	13：15 ～　テーマ８ 朝ゆっくり寝ていただく 介護老人福祉施設ヴィラ泉　前田　隆昌	朝、職員都合で早く起こしてしまい、食堂にて朝食前に居眠りをしている利用者が多かった。今回早番を２人に増やしあさゆっくり寝ていただくように変更してみた

12	13：32 ～　テーマ 15 施設から社会へつながりを ～地域活動への参加を進めて～ 横浜市新橋ホーム　本木　峻也	養護ホームではさまざまな理由（DV、精神障害、知的障害等）により地域社会へ溶け込むことが困難なお客様が入居されている。しかし、ホームの外での活動をしたいという希望が多く聞かれている。新橋ホームでは、地域活動への参加を支援し、地域住民の１人としての役割を持って頂き、生きがいを得られるよう取り組みを行っている。
13	13：49 ～　テーマ 8 あなたの誕生日をプロデュース！ ～集団の誕生日から個人の誕生日へ～ 地域密着型特別養護老人ホーム　フレンド神木二番館　川田　香織	当施設では、一人一人の誕生日に着目して集団でその月の誕生日の方々を一度に祝うことよりも個人を尊重し、誕生日当日にその方だけをお祝いする企画をしていこうと取り組みを始めました。人それぞれの意向や好みは様々です。ここでは、実際に行った入居者様の誕生日企画を例に挙げアプローチから実行後、これらの課題を発表いたします。
14	14：06 ～　テーマ 15 みんなで取り組む歯みがき習慣 ～ご利用者の口腔内環境の改善と感染症予防～ 養護老人ホーム敬愛の園　髙木　彩美	平成２６年度より業務検討委員会口腔ケア担当が発足し、口腔ケアに力を入れてきた。養護老人ホームの特色を活かし、自立支援を口腔ケアに取り入れて、ご利用者の口腔内環境の改善、健康維持・感染症の予防を目標に活動を行った。
15	14：23 ～　テーマ 15 「俺に支援は必要ないよ」 ～高齢視覚障害者への個別支援～ 横須賀養護老人ホーム　高階　綾子	今回取り組んだテーマは「高齢視覚障害者への個別支援」です。視覚障害をお持ちの入所者Ａさんに「俺に支援は必要ないよ」と言われる中、２つの取り組みを行いました。実践した２つの取り組みの内容と取り組み前後の入所者Ａさん、フロアスタッフ、自分自身の変化について報告させていただきます。
16	15：00 ～　テーマ 14 事例から見える第２号被験者の支援のあり方 横浜市左近山地域ケアプラザ　寺田　裕子	第２号被保険者の退所から現在までの支援を通じて、サービスを展開する上での課題や問題点を整理し、今後の自立支援につなげる為の検証をおこなった。
17	15：17 ～　テーマ 12 自分たちの地域を自分たちで考えよう ～当事者として共に地域に関わることを目指し～ 浦賀・久里浜第一地域包括支援センター　花崎　貴裕	地域包括支援センターとして、地域住民（町内会や民生委員など）や専門職（病院、介護保険事業所、薬剤師など）とともに動き考える場が増えていく中で、それぞれが当事者意識を持ちながら地域で協働できるよう、「つなぐ」、「サポートする」ことを意識して活動した。
18	15：34 ～　テーマ 14 単身独居の在宅看取りに挑む！ ～在宅看取りの課題（多職種連携と地域課題）～ 横浜市福祉サービス協会　ケアセンターにし　宮　久留美	国が構築する地域包括ケアシステムの一環として、今後の在宅ケアにおいて在宅看取りの技術を研鑽していくことが介護事務所の使命ともいえる。病院や施設で迎える最後がまだまだ一般的な現在において特に困難な単身独居の看取りに多職種との連携を図りながら果敢に取り組んでいる実践事例をレポートしつつ、地域の課題などについて検証する。
19	15：51 ～　テーマ 12 農園活動でみんな笑顔に ～誰でも参加できる場を目指して～ 相原高齢者支援センター　川上　里沙	企業や病院協力のもと、地域高齢者や認知症の方の閉じこもり予防、また医療リハビリを終えた方の受け皿を目的として農園活動を開始。交流を通してリハビリの視点からも参加者をフォローする事ができ、中には認知症の方の理解を深めようと農園活動ボランティアとして参加する方もでている。その活動取り組みについて報告。
20	16：08 ～　テーマ 12 中学生と一緒に考える高齢者の見守り ～意識調査から見えてきたもの～ 藤沢市湘南大庭いきいきサポートセンター（地域包括支援センター）　山本　志織	藤沢市湘南大庭地域包括支援センターでは地域ケア会議で検討し、平成２６年度に地区内の２中学校の３年生を対象に特別授業による啓発を開始。平成 27 年度の実施に向け、中学生の高齢者に対する意識調査として、①生徒会等の一部生徒との座談会、②３年生にアンケートを実施しました。今回は意識調査の結果を報告いたします。
21	16：25 ～　テーマ 12 地域の力でみんな元気に！ ～ボランティア育成とサロン運営～ 横浜市六角橋地域ケアプラザ　原島　隆行	総合支援事業に先駆け、各地区（徒歩圏）での高齢者の居場所づくり（サロン事業）の展開に向け、ボランティア育成からサロンの運営の取り組み、また活動する中で上がった課題について発表する。

〈テーマ照合表〉

1 食事・栄養・口腔ケア	5 安全管理	9 人材育成・業務改善と効率化	13 デイサービス事業
2 排泄・入浴ケア	6 アクティビティ・リハビリ・レクリエーション	10 その他（施設系）	14 訪問介護・居宅介護支援事業
3 認知症ケア	7 ケアプラン・相談援助	11 地域密着（グループホーム）・小規模多機能	15 養護・軽費・ケアハウス等
4 ターミナルケア・医療との連携	8 ユニットケア・グループケア	12 地域包括支援センター	16 その他（在宅系）

研究発表リスト＜第５会場＞

	時間／テーマ／発表題名／施設名／氏名	発表内容
1	9：35 ～　テーマ 13 人生は、これから体操 ～認知症予防プログラムに取り組んで～ 介護老人福祉施設みやうち　石部　陽子	コグニサイズは、認知症予防プログラムであり、当事業所においては、「これから体操」と利用者に親しみやすい名称にして、平成２７年７月より取り組みを始めました。プログラムに取り組む中で、アセスメントシート（認知機能テストと身体計測）を用いて、経過観察と記録を行い、そのデータを基にプログラムの有効性を検証します。
2	9：52 ～　テーマ 13 通所介護における基礎生活レクリエーション ～一日まるごとレクリエーション～ デイサービスセンターかわしまホーム　斉藤　清	デイサービスにおけるレクリエーションを集団レクリエーション、個別レクリエーション、基礎生活レクリエーションの３つに分類し、そのうちの基礎生活レクリエーションについての取組内容を発表します
3	10：09 ～　テーマ 13 デイサービスを通じての生活リハビリ ～出身地の北海道に連れていきたい～ 特別養護養護老人ホーム　弥生苑　服部　翔太	神経難病をお持ちのお客様に対して「出身地の北海道に連れていきたい」というご家族の目標を達成させるために、他職種との連携を通じながらの日常生活動作訓練の取り組み方法。
4	10：26 ～　テーマ 13 もっともっと自分でできるはず！ ～Ｋ様のチャレンジ～ 潤生園在宅介護総合センター　小川　真理子	Ｋ様は８年前に脳梗塞で倒れ、以来ご主人が自宅介護を続けてきたが、長年の介護疲れから限界を感じ、レスパイト、入浴等を目的にれんげの里の利用を開始した。不安でいっぱいのＫ様の様子をみて、どうしたらＫ様らしさを取り戻せるのかを考え、取り組みを開始。結果、Ｋ様は要介護度５から２へ劇的なＡＤＬの向上をした。
5	10：43～　テーマ 13 誤薬事故防止の取り組み ～ダブルチェックの重要性～ 上永谷デイサービスセンターすずかけの郷　沼尾　京子	通所介護課内にて服薬時の誤薬事故をなくす為、介護士と看護師の連携強化を図り、ダブルチェック徹底の取り組みについて発表致します。
6	11：00 ～　テーマ 13 ご利用者が輝けるデイサービス 芭蕉苑介護老人福祉施設　栗原　知貴	職員が何でもするのではなく、出来るところはご利用者自身でして頂く事で、デイでの居場所や安心感が持てるのではないかと考え、ご利用者が自発的に行動する方法を検討、実践いたしました。
7	11：17 ～　テーマ 13 利用者とご家族に寄り添えるデイサービス ～ご家族の「自宅でみたい」の思いを共有して～ デイサービスセンター椿　柳井　淑子	認知症状が顕著でありながらも、ショートステイ等の外泊を利用せずに、あくまでも自宅を中心にした生活を希望されるご家族との、一番信頼していただける関係作りを報告いたします。
8	12：34 ～　テーマ 13 家族も驚くデイサービスの取り組み ～えっ本当にやっているの？～ 横浜市野庭地域ケアプラザ　池田　利恵	平成 14 年 2 月に開設。定員 40 名のデイサービスです。全面が公園で窓からは四季折々の景色が楽しめます。自立支援を目指しています。
9	12：41 ～　テーマ 13 「デイサービスで生きがい探し」 ～身体が動かなくてもまだまだ現役！！～ 横浜市西金沢地域ケアプラザ　田中　達也	援助されて過ごすだけでなく、人の役にたつ、作品を作り上げる、等の喜びを感じながら過ごしていただくデイサービスを作る。
10	12：58 ～　テーマ 13 生活機能に焦点をあてた機能訓練について ～他職種連携を意識して～ 社会福祉法人横浜市福祉サービス協会　新鶴見ホーム　沢田　信之	デイサービスにおける個別機能訓練にＩＩについて、訪問→アセスメント→個別機能訓練計画書作成→機能訓練実施→カンファレンス→評価についての説明を行います。　また在宅を意識した計画書の作成や訓練の内容、他職種での連携方法にも触れたいと思います。　併設型デイサービスとして、ショートステイとの連携についてもご説明いたします。
11	13：15 ～　テーマ 13 Ｍさん朝ごはん食べましたか 芭蕉苑介護老人福祉施設　こまよせ荘　渡部　久美子	お酒が止められず、栄養不良で低血糖発作を繰り返してしまう男性利用者の生活を支えるため、デイサービスでは何ができるのか考え、小さいけど新しい取り組みを始めました。

12	13：32 ～　テーマ 13 笑顔の先にあるものは・・・ ケアセンター敬愛の園　大野　達之	大和市南部に位置する社会福祉法人敬愛会は通所介護事業所の他、特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、地域包括支援センターなどの事業を行い、法人設立から 65 年を迎える。平成 24 年 8 月に開所した新たな事業所「だんだん」は「地域のために手をつくし、心を尽くす」という法人の年間スローガンをもとに取り組んでいる。
13	13：49 ～　テーマ 13 人材育成に関する取り組み ～職場の活性化や個々の成長を求めた～ 晃風園デイサービスみのり　畑山　恭子	ご利用頂いている利用者様に「職員は優しい気持ちで、声掛けが出来ているのか？」と、職員から声が上がりました。そこで様々な問題点について話し合い「初心に戻る大切さ」を目標に決めました。アンケートによる課題等の抽出。会議等での検討､業務改善を進め｢また来たい｣と言って頂けるデイサービスを目指していきます。
14	14：06 ～　テーマ 13 5 つのグループ分けによる取り組み ～より良い空間作りを目指して～ 晃風園デイサービス草柳　小方　淑恵	全職員を 5 つの係別グループに分け、業務や役割を細分化。毎月の会議にて活動を報告したり協力を呼びかけています。その中から「花壇チーム」「制作チーム」の活動を報告します。土いじり好きなご利用者様と共に植え替え等を実施。また季節に応じたデイルーム内の飾り付け。デイサービスの入口から中まで雰囲気がガラリと変わりました。
15	14：23 ～　テーマ 13 ようこそ！Ｒｉｓｔｏｒａｎｔｅ町田 デイサービス南さいわい　近藤　啓太	「何か食の楽しみを」と管理栄養士である町田さんの経歴を生かしデイサービスでレストランができないか考えました。シェフ町田が季節の旬の食材を使用し、月１～２回美味しい料理を振る舞ってくれます。またリストランテの日には雰囲気作りにこだわり、まるで高級レストランにでも来たかのようにその時の食事を楽しむ事ができるのです。
16	15：00 ～　テーマ 16 かながわライフサポート事業での取組 ～ CSW の役割と事例を通じての関わり方～ 藤沢養護老人ホーム　丹治　翔	平成２５年８月に事業を開始した「かながわライフサポート事業」に当法人は開始当初から参加し、現在は２名の CSW が在籍しています。事例は対象者に寄り添い自立した生活への復帰を目的に、多くの社会資源と多職種連携で関わったケースを取上げ、ライフサポート事業の役割と幅広い福祉課題に取組む必要性について発表します。
17	15：17 ～　テーマ 16 多職種連携による地域包括ケアの実践 特別養護老人ホーム　芙蓉苑　高橋　翔太	関わりに拒否があり、孤独で心を閉ざした独居高齢者に対して、地域住民から様々な相談が地域包括支援センターに入り、また身体面でも生命に危険がある状況であった。生活面と QOL の維持が急務であった本人に対し、地域住民・民生委員・区役所・地域包括支援センター・サービス事業所などの多職種連携による地域包括ケアの実践について発表する。
18	15：34 ～　テーマ 16 自殺未遂者への支援方法の比較 ～危機介入時のケアマネジャーに必要なもの～ 芭蕉苑介護老人福祉施設　小山　明宏	我が国の２０１３年の自殺者数は２万７２８３人であり、近年下降傾向とはいえ依然多数の方が自殺で亡くなっている。また自殺者の約４割が６０歳以上であり、高齢者の自殺も大きな社会問題となっている。本研究では自殺未遂をした要介護高齢者への支援方法の考察を行い、危機介入時におけるケアマネジャーの支援方法、課題について明らかにする。
19	15：51 ～　テーマ 16 見えない壁をつくったのは誰？ ～連携は「地域でくらす」を支えること～ 横浜市福祉サービス協会　神奈川介護事務所　山近　あゆみ	医療と介護の連携と言われるが、現場では見えない壁のようなものがあり、チームとして関われていないジレンマを抱えている。地域包括ケアの推進に向けて、「互いにものが言える関係」になるべく、医療との勉強会の企画・開催を定期的に行っている。開催の経緯、現状と展望について考察する。
20	16：08 ～　テーマ 16 パーキンソン病に対する在宅生活支援 訪問看護ステーション青鷺　新井　英雄	近年、要介護者数は増加し家族が介護を行う割合も増大している。その中でもパーキンソン病は多くの臨床症状を呈し、進行性のため ADL、IADL の変化が顕著に認められるケースが多い。今回、このようなパーキンソン病の事例を通し訪問リハビリテーションを提供する中で在宅生活における生活支援についての関わりを紹介する。
21	16：25 ～　テーマ 6 それってもしかして、元気の秘訣！？ ～希望を叶える個別支援～ 香樹の里　難波江　みさと	ご利用者様には『生きがい』職員には『やりがい』を持ってもらえるように日常会話の中でご利用者様のご希望をお聴きし、在宅生活では当たり前のようにしていたことを行う機会がなくなってしまったご利用者様にその希望が叶うように機会を提供することも我々の大きな役割だと思っておりその実現に向けて取り組んだ内容を紹介いたします。

〈テーマ照合表〉

1 食事・栄養・口腔ケア	5 安全管理	9 人材育成・業務改善と効率化	13 デイサービス事業
2 排泄・入浴ケア	6 アクティビティ・リハビリ・レクリエーション	10 その他（施設系）	14 訪問介護・居宅介護支援事業
3 認知症ケア	7 ケアプラン・相談援助	11 地域密着（グループホーム）・小規模多機能	15 養護・軽費・ケアハウス等
4 ターミナルケア・医療との連携	8 ユニットケア・グループケア	12 地域包括支援センター	16 その他（在宅系）

研究発表リスト＜第６会場＞

	時間／テーマ／発表題名／施設名／氏名	発表内容
1	9：35 ～　テーマ６ 達成感のあるレクリエーション活動の実施 ～継続的なレクリエーションの実践～ 特別養護老人ホーム中川の里　岡野　達也	継続的なレクリエーション、達成感のあるレクリエーション活動実施にあたり、書道展参加、園芸活動をおこなった。ご利用者さま主体の活動は、自ら目標設定、目標に向けた活動をすることで、自己決定の支援ができ、更に達成感を得て頂く活動となった。
2	9：52 ～　テーマ６ QOL の向上を目指すための仕組みづくり ～日々の生活を彩る～ わかたけ青葉　末高　真吾	利用者の一日の過ごし方に疑問をもった所からこの取り組みは始まりました。利用者の日々の過ごし方は一定で、日々の生活に変化がないものでした。人によっては不満もなく楽しいよと言ってくれる人もいます。しかし、大抵の方はこう言います、「何かないの？」この言葉から私たちの取り組みであるスタンプ制度は始りました。
3	10：09 ～　テーマ６ Shall w e　体操 ～楽しみながら健康的な体操～ 特別養護老人ホーム　芳徳の郷　ほなみ　山尾　卓也	ご利用者に「レクレーションは？」と問うと「体操が楽しみ！」との声を聞くことが出来た。この声に応え、今後、日々の生活の中に楽しみながら行う体操を定期的に取り入れ、豊かで健康的に過ごしていただくことができたら。そして身体的・心理的にどのような変化があるのか、さらに ADL の維持・改善が目指せたら。
4	10：26 ～　テーマ６ チーム南２で嵐の「ふるさと」を歌おう！ ～特別養護老人ホームにおける生きがいの提供～ 特別養護老人ホーム 太陽の國　佐藤　浩子	音楽療法を行うなかで、入所者様の秘めたる力を感じ、施設の芸術祭で発表する事を考えた。曲は A さんの好きな〝嵐〟の「ふるさと」を取りあげ、メンバーを「チーム南２」と呼び練習に励んだ。その過程で生活にハリの出る方が何人も出て来て、発表後は多くの方が達成感を感じていた。この事から、生きがいの提供の大切さを感じた。
5	10：43～　テーマ６ みんなで元気に１・２・３！！ ～〝レクリハ〟始動！～ レジデンシャル常盤台　佐藤　カズノ	「もっと体を動かしたい！」「このまま動けなくなるのは困る…」「なにか楽しいことがしたい！」など、ご利用者の声に応えるべく、レクリエーションとリハビリテーションを融合させた、〝レクリハ〟を開始しました。機能訓練指導員が中心となり、ご利用者が意欲的に、楽しく、飽きずに、継続して取り組めるよう工夫しています。
6	11：00 ～　テーマ６ 構音障害の理解とコミュニケーションの工夫 特別養護老人ホーム　白朋苑　松宮　友紀	重度の構音障害のある利用者様は自身の思いを伝える手段が少なく、限られた職員で思いを聞き取っている状態がある。クローズドクエスチョンの研修やコミュニケーションの取り方の工夫（コミュニケーションボードなど）を工夫し、全職員が本人の気持ちを汲み取ることができるよう環境つくりを行っており、その取り組みの発表をする。
7	11：17 ～　テーマ６ 笑顔と花を咲かせましょう ～自然を　おいしく　たのしく　シャローム～ 特別養護老人ホーム　シャローム　清水　亮	施設開設当初から中庭に花などを植え、一つのレクリエーションとして楽しんでいた。昨年園芸に詳しい職員が退職すると、数か月もすると中庭が荒れ果て、職員や利用者様が緑のある生活から離れてしまった。そこで、私達は再び花を咲かせ、同時に利用者様の笑顔も咲かせられたら良いなと思い、園芸に取り組んだ。
8	12：34 ～　テーマ６ 「意欲」と「行動」への支援 part2 ～なでしこ YOKOSUKA と「コラボ！」～ 特別養護老人ホーム 興寿苑　積　緑	コーラスグループが結成され５年目に差し掛かり、歌で参加できない入居者の方にも参加したいという「意欲」への支援ができないか職員より提案があった。そこで、一緒に太鼓を作り３月の合同発表会に向けて練習が始まった。「聞く側」から「演奏側」に変化していく入居者等の様子を発表します。
9	12：41 ～　テーマ６ 特別養護老人ホームにおける音楽のある日常 リバーサイド田名ホーム　森　孝志	当施設では様々な場面で音楽を耳にする機会を設けています。食事・睡眠・入浴・排泄等の場面で、オルゴール・クラシック・好きな曲・流行歌等を流しています。 その中で、今回は音楽による排便コントロールの取り組みをご紹介します。
10	12：58 ～　テーマ６ 介護老人福祉施設でのリハビリテーション ～男性クラブを発足して～ 介護老人福祉施設ヴィラ泉　長澤　久美子	介護老人福祉施設にいる多くの男性利用者は女性利用者が多いこともありクラブへの参加も少なく関わりを持つことが困難であった。そこで今回リハ助手が取り組んだ男性クラブについて報告する
11	13：15 ～　テーマ６ 自分の足でおトイレに行きたい！ ～フットケアから学ぶ自立支援～ 横浜市浦舟ホーム　石綿　祐奈	Ｉ様は、人と話をすることが苦手なお客様です。普段の生活の中でご本人様よりトイレのご希望はありますが、足の痛みを感じる為、立位をとることが難しい状態でした。足の浮腫みや爪のケアを行うことで、立位保持に繋がるのではないかと考え、フットケアを導入しました。取り組んでいく中で、会話や表情に変化がみられるようになりました。

12	13：32 ～ テーマ６ アクティブなショートステイ 美立の杜 ジャントリ・シンボロン		ご利用中のアクティビティ等の工夫で楽しく短期生活介護を利用していただき、無理なく在宅での生活を継続できる。
13	13：49 ～ テーマ６ 当センターにおける自己実現への取り組み 社会福祉法人 聖テレジア会 七里ヶ浜ホーム デイサービス台 岩﨑 俊介		当デイサービスセンターでは機能訓練の取り組みとして、個別機能訓練加算２を算定しています。個別リハビリでは身体機能の向上を目的に行う事だけでなく、利用者の自己実現の達成を目的に介入しています。今回、リハビリの一環で買い物、外出訓練が行えた事で自己実現達成への第一歩が踏めたケースを紹介いたします。
14	14：06 ～ テーマ６ ハンバーガーを食べに行きたい！ ～寝たきりの生活から外出支援への取り組み～ 横浜市新橋ホーム 小松 麻美		臀部に褥瘡があり、短時間の座位保持でも臀部の痛みを訴えられ、1日の大半を居室のベット上で過ごされ他者との関わりも薄かったお客様。褥瘡が完治したことで長時間の座位保持や他者との関わりの増加、臥床浴からリフト浴での入浴変更。オムツ交換からトイレ誘導、と約1年間での ADL の向上への取り組みについて発表します。
15	14：23 ～ テーマ６ いっしょにアクティビティ！！ ～コミュニケーションロボットの導入効果～ 社会福祉法人横浜市福祉サービス協会 新鶴見ホーム 菊地 裕允		当ホームにロボットがやってきてから３年以上が経過しました。なかなか、現場で活用することができない状況から、少しずつアクティビティ場面で活用する機会が増えてきました。お客様が集うお茶会で、ゲームや歌を披露してもらうと、大喜びのお客様！活動を通じて見えてきた、ロボット活用の効果と今後の課題について報告します。
16	15：00 ～ テーマ６ １泊２日旅行 ～当たり前の生活がもっとしたい～ 特別養護老人ホーム みどりの園 中島 里実		職員が担当ご利用者一人に対して行う個別担当者ＤＡＹを実施し、ご利用者の意欲を追及していく中で、当たり前の生活を求めている事を実感しました。施設生活では難しく過去には出来ていた当たり前の生活。その中で特に“旅行に行きたい”という希望が多く、実現しました。現在ＡＤＬに合わせた内容にて継続実施しています。
17	15：17 ～ テーマ 11 共用型デイサービスを始めて 高齢者グループホーム 三幸の園 田澤 千恵		平成２６年１２月から共用型認知症対応型通所介護を開設しました。開設時の取り組みから現在に至るまでの経過をご報告します。
18	15：34 ～ テーマ６ 『パーソナル・ソング』を探し、喜びを！ ～個人史を辿りゲストのお気に入りの曲を探る～ 特別養護老人ホーム愛成苑 佐野 晶		アメリカで 1000 以上の老人施設で取り入れられ、広がりをみせる音楽レク『パーソナル・ソング』。ゲスト一人一人のお気に入りの音楽を個人史などを手がかりに探り、それを雑音を排すためヘッドフォンで直接耳に届けます。するとゲストは喜びなどの感情を呼び覚ます。という日本における試みです。
19	15：51 ～ テーマ 11 外への第一歩 ～顔なじみの職員が施設にいる安心感～ 太陽の家馬堀倶楽部 川上 陽平		以前は活発に過ごされていたが、年を取ってしまった自分の姿が恥ずかしく引きこもりになってしまう。家族から本人の気持ちにあわせ外出する機会が作れればと、馬堀倶楽部の利用となる。しばらくは自宅に訪問し、交流をしながら信頼関係を築いていく。ある日、突然「馬堀倶楽部に行ってみたい」との言葉が聞かれ通い利用となる。
20	16：08 ～ テーマ６ 園芸療法の取り組み 社会福祉法人横浜市福祉サービス協会 新鶴見ホーム 城田 果那		平成２５年の開設以来、ボランティアさんの協力を得て、園芸療法に取り組んできました。屋上テラスで栽培したハーブでお茶を楽しんだり、小さな田んぼで稲刈りもしました。植物とのふれあいはお客様の生活に潤いと楽しみをもたらします。ボランティアさんといっしょに育ててきた、園芸の時間ついて報告します。
21	16：25 ～ テーマ 11 「私を止めないで」私らしく暮らすために ～本人本位の支援についてチームでの取り組み～ グループホーム相模原 吉田 雪絵		「自由に歩きたい」本人の想いを大切にしたケアを実践しています。一人で外出をして戻ることができない認知症の方に一人での外出を可能にするための環境整備、家族の願い、職員体制、施設全体の理解と協力、地域の協力など様々な面で捉え私らしいくあｒ氏を支えています。

〈テーマ照合表〉

1 食事・栄養・口腔ケア	5 安全管理	9 人材育成・業務改善と効率化	13 デイサービス事業
2 排泄・入浴ケア	6 アクティビティ・リハビリ・レクリエーション	10 その他（施設系）	14 訪問介護・居宅介護支援事業
3 認知症ケア	7 ケアプラン・相談援助	11 地域密着（グループホーム）・小規模多機能	15 養護・軽費・ケアハウス等
4 ターミナルケア・医療との連携	8 ユニットケア・グループケア	12 地域包括支援センター	16 その他（在宅系）

研究発表リスト＜第７会場＞

	時間／テーマ／発表題名／施設名／氏名	発表内容
1	9：35 ～　テーマ９ 『ダメ！』はダメ、ダメ ～ストレスフリーな生活を目指して～ パークサイド岡野ホーム　芳賀　真由美	認知症の周辺症状で、同じ訴えが多く立ち上がり頻回の利用者がいる。都度対応するも、繰り返し続き職員のストレスになり、苛立ち、利用者に対し強い口調が目立つようになってしまった。そんな折、第三者からの指摘もあり、施設全体でスピーチロック防止に向けて取り組むことになった。
2	9：52 ～　テーマ９ 「ここで働いていきたい」 ～先輩になった私たちにできること～ 特別養護老人ホーム　富岡はまかぜ　磯谷　多真貴	入職して３年目で、新人職員や実習生を指導する機会があり、どう関われば良いか、上手く指導できているのか、不安を抱えていた。新人職員の入職時の“思い”と就職して現在感じている“思い”の変化を知る事で先輩として何ができるか、また、新人職員が仕事を身に付けていく為のやる気を引き出す職場環境を考える。
3	10：09 ～　テーマ９ いつもそばにいるから ～寄り添えていますか、わたしたち～ 村岡ホーム　片桐　江里子	多動な利用者への対応が、仕事の忙しさからおろそかになっていると感じることがある。職員間で声があがり、どうしたら利用者に寄り添うための時間を作ることができるか、業務の見直しから不適切なケアの見直しへと繋がる施設の取り組みを発表します。
4	10：26 ～　テーマ９ 職場の良い雰囲気づくりは接遇向上から ～接ｇｏｏｄ！皆が幸せになる５つのメソッド～ 養護老人ホーム湘風園　小熊　知栄	措置施設として歴史のある当施設に接遇の意識を浸透させたいと、平成２３年から取り組んでいます。手探りで行ってきた中で、職員になぜ接遇の意識が低いのか、接遇に関する研修体系が無かった点など問題が見えてきました。まだまだ取組中ですが問題点を踏まえ継続していきたいと考えています。
5	10：43～　テーマ９ 研修は活かされていますか？ ～『学ばされる』から『学びたい』へ～ 寒川ホーム　木藤　剛	施設内での研修計画・方法について
6	11：00 ～　テーマ９ 妊娠出産育児に関わる離職防止の取り組み 介護老人福祉施設　わかたけ富岡　吉田　隆治	わかたけ富岡における妊娠・出産・育児に関わる離職防止の取り組みとして、実際に行っている職場復帰支援の詳細を客観的に評価し、今後の更なる人材育成を考える。
7	11：17 ～　テーマ９ よし！改善活動しよう ～安心・温もり・満足の実現のために～ 特別養護老人ホーム太陽の家　遠藤　知美	フロアーで「今、何をしたいか」アンケートをとった際に、環境整備についての　意見が多く聞かれました。収納スペースがないため、居室前の廊下にポータブルトイレなどが置いてありました。事故の原因の一つではないかとの声が聞かれ、生活環境を整えるには何ができるかをみんなで考え、取組みました。その過程と結果を発表したいと思います。
8	12：34 ～　テーマ９ チームで取り組んだ福祉サービス第三者評価 ～取り組みのプロセスから得られたもの～ レジデンシャル常盤台　外池　永尚	開設から５年、２回目となる福祉サービス第三者評価を受審しました。私たちが提供している介護サービスが、自己満足ではなく、真に、ご利用者やご家族、地域社会のニーズに応えているのか否かの検証を自ら行うというプロセスは、確実にサービスの質を高め、組織力の向上に繋がりました。
9	12：41 ～　テーマ９ 想いの襷 -TASUKI- をあなたへ ～新人教育について～見直そうエルダー制度～ シルバータウン相模原特別養護老人ホーム　仙田　恵	現在の新人教育について部署によって違いがあること、エルダー制度として行っていたがエルダー制度自体に職員の理解が少なかったことが分かった。職員それぞれが新人の時に感じた事や教え方の悩みなどがあることについて分析し、シルバータウンのエルダー制度を検討した。
10	12：58 ～　テーマ９ 利用者体験を通して ～落ち着いている＝退屈～ 特別養護老人ホーム柴胡苑　清水　裕太	日々のケアや業務を見直す為、１日利用者体験を行った。利用者役は「１日たいくつだった」という結果となった。充実した１日を過ごすためのプログラム作りを開始し、改善にむけて取り組んだ結果の発表。
11	13：15 ～　テーマ９ トレーナー・トレーニーについて ～互いの成長を遂げるために～ 特別養護老人ホーム　白朋苑　鈴木　美香	「量より質」を大切にし、一つひとつの業務に取り組む。担当指導者自身も、知識・技術を伝達・教育しながら業務を振り返り、改善につなげたり、自らの指導力を高める。新人職員の面談を実施する中で、人材育成の工夫や介護現場のイメージアップの工夫を行い、人材不足にどのように対応しているかを発表する。

12	13：32 ～　テーマ９ チームケアで PDCA をぐるぐる回す ～ PDCA サイクル実践の定着に向けて～ 特別養護養護老人ホーム　弥生苑　徳家　正和	ＰＤＣＡサイクルを意識したケアの実践に取り組むにあたって、その定着と習慣化を目指したスタッフのトレーニングと、チームケアをより良く実践するための情報共有の有り方について研究した。
13	13：49 ～　テーマ９ 「CS 委員会」活動を通じて伝えたいもの ～忙しいからこそ、振り返ろう！～ 特別養護老人ホームカトレアホーム　細川　清人	平成 27 年 4 月より施設での「介護の質」の向上を目指し「CS 委員会」が発足した。職員自らが気づき、考え、改善に繋げられる様、委員会メンバーが奮闘してきた経過を報告します。
14	14：06 ～　テーマ９ 中堅職員って、だあれ？ ～ 中堅職員だから…」と言われるけれど～ 横須賀老人ホーム　稲葉　まゆみ	施設内に勤務する介護職員を対象にアンケート調査を行い、介護職員がイメージする「中堅職員」像が明らかにした。更に、アンケート結果から介護職員が中堅職員と考える「経験年数５～７年」の職員３名に対し、インタビュー調査を行い、職員としての仕事に対しての意識を明らかにした。その結果､様々な「ギャップ」があることがわかった。
15	14：23 ～　テーマ９ 接遇継続のすすめ ～あたたかい思いやりのある介護を目指して～ 特別養護老人ホーム　若竹苑　佐野　貴彦	接遇の向上、そしてその維持に必要な仕組み作り。ご利用者様だけでなく、職員間での接遇などによって接遇を高める雰囲気作りを行っていく。
16	15：00 ～　テーマ９ 嬉しいよ、ガアーガアーと言われないから ～接遇の方法での御利用者様の変化について～ 特別養護老人ホームやまびこ荘　川名　絹世	現在、問題を抱えている御利用者様に対して、職員のコミニュケーション・レクリエーション・傾聴等を工夫・改善し接遇し、その方がどのように変わっていったのかということや、又その過程での職員の接遇向上の取り組みについての紹介をさせていただきます。
17	15：17 ～　テーマ９ ゴール無き役職 ～私達が管理職になってから～ 第２新横浜パークサイドホーム　谷村　祐貴	役職に就く前は、上司の仕事に対して文句や要望を多く持っていた。しかし、いざ自分達が役職に就き振り返ってみると、日々の業務に追われ自分達が嫌だと思っていた上司と同じ仕事の仕方だという事に気付いた。管理職としての思いと実際の仕事とのギャップ・苦悩、乗り越える為にチャレンジしている内容について発表します。
18	15：34 ～　テーマ９ 価値のある創造を一人ひとりの意識から ～自らの手でありたい姿を求めて～ 特別養護老人ホーム太陽の家二番館　佐藤　隆	私達の職場では施設の方針である「安心・温もり・満足」を利用者様に提供すべく職員一同努めています。やる事、やりたい事、やらなければいけない事など職員間で一体感を醸成するために改善活動をコアとして取組んで参りました。発表の機会を戴きましたので、報告させていただきます。
19	15：51 ～　テーマ９ 「良いケアをしている人の発見」 ～２０８の「良いケア」から見えてきたもの～ 特別養護老人ホーム　太陽の國ほどがや　上里　秀	拘束ゼロ推進委員会では拘束廃止以降、グレーゾーンに焦点を当てて研修等を行ってきた。ただ今年度は大きく発想を変えて「良いケアをしている人の発見」というテーマで取り組みを行った。今回の発表は職員から集まった「良いケア」を集計・分析したもので今後に生かしていくものである。
20	16：08 ～　テーマ９ フロア会議　進め方の工夫について ～『よりよい　さくら山を目指して』～ かまくら愛の郷　大島　信太郎	月１回のフロア会議で発言するのは、　リーダー陣中心であった。会議というものは話やすい雰囲気を作り、お互い話し合い相互理解を深める場であると考える。　毎回テーマを決め、コミュニケーション向上に繋げられるように、体験型グループワークを取り入れた。これを行う事による変化を検証した。
21	16：25 ～　テーマ９ リーダー研修＋ネクストリーダー塾開催中 ～組織はトップの器以上のものにならない～ 特別養護老人ホーム愛成苑　高久　正信	「組織はトップの器以上にはならない」と言われます。ならば器の大きなリーダーを育てることから始め、次にそれを支える人財（ネクストリーダー）の育成を始めることにしました。研修というと知識やスキルの習得がメインに成りがちですが、当苑の人材育成研修は人間性を磨く事、人間力の向上に主眼をおいて実施しています。

〈テーマ照合表〉

1 食事・栄養・口腔ケア	5 安全管理	9 人材育成・業務改善と効率化	13 デイサービス事業
2 排泄・入浴ケア	6 アクティビティ・リハビリ・レクリエーション	10 その他（施設系）	14 訪問介護・居宅介護支援事業
3 認知症ケア	7 ケアプラン・相談援助	11 地域密着（グループホーム）・小規模多機能	15 養護・軽費・ケアハウス等
4 ターミナルケア・医療との連携	8 ユニットケア・グループケア	12 地域包括支援センター	16 その他（在宅系）